

4

重点プログラム



(1) 基本方針

事業計画の中でも、事業の波及効果、事業実施の熟度、商業者や生活者の期待などを踏まえて、重点プログラムを設定する。重点プログラムとしては、以下の視点から、それぞれの事業を位置づける。

魅力ある商業形成と商店街やまちづくりに資する人づくり

重点プログラム「21世紀商業リーダーの育成」

タウンマネジメントや様々な商業環境の変化に対応できる商店街の組織力の強化、組織づくり

重点プログラム「広域型商店街活動の推進」

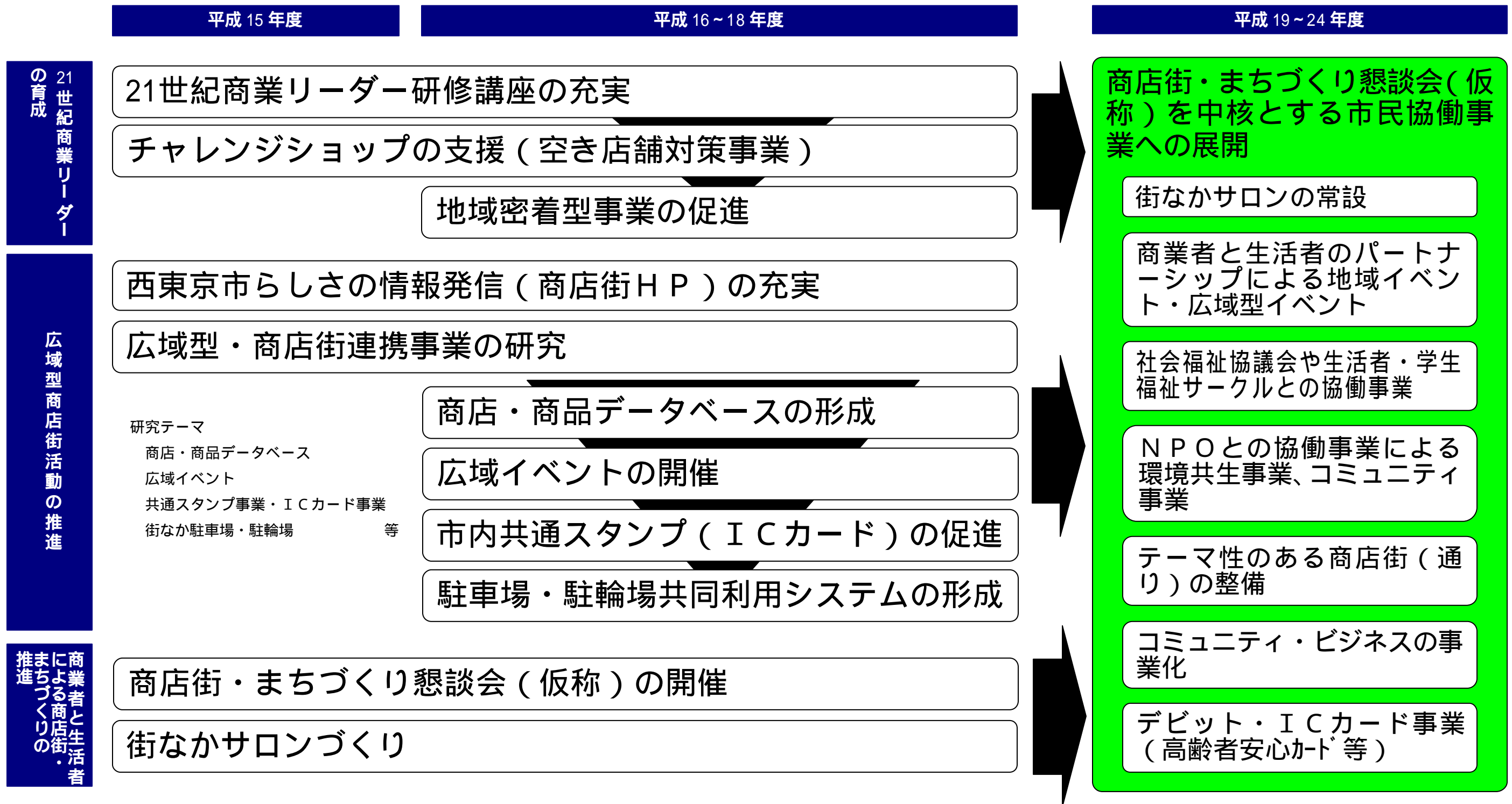
商業者と生活者のパートナーシップによる商店街・まちづくりを推進するための仕組みづくり

重点プログラム「商業者と生活者による商店街・まちづくりの推進」

(2) 重点プログラムの流れ

重点プログラムには、以下の事業を位置づけ、戦略的に実施していく。

【重点プログラム及び事業の流れ】



できるものは前倒しで取り組んでいく

(3) 重点プログラムの概要

21世紀商業リーダーの育成

【平成15年度】

21世紀商業リーダー研修講座の充実

- 目的：研修活動を通じて、時代の変化や生活者のニーズに的確に対応でき、新たな生活提案ができ、西東京市の商業をリードする商業者を育成する。
- 対象：各商店街若手リーダー（公募）
起業家（商業者）、またその予備群（公募）
- 概要：商業の専門家として、時代や生活者ニーズに応えられる商業経営のあり方、ビジネスモデルの作成能力の向上を図り、研修講座を修了したリーダーの新たな取り組みや優秀なビジネスモデルへの助成、チャレンジショップなど活躍の場を提供する。

チャレンジショップの支援（空き店舗対策事業）

- 目的：新しい感覚や意欲はあっても実績や人間関係の少ない起業家に対して開業の場を提供するとともに、商店街の空き店舗等をなくし、魅力ある商店街づくりを支援する。
- 対象：起業家（商業者）
商業者（テナントミックスや交流サロンの整備）
- 概要：21世紀商業リーダー研修講座の受講生などが、市内で起業・創業できるよう、また、商業者がテナントミックスや地域コミュニティの交流の場を確保するような新規出店や交流サロン等の整備にあたって、市内の空き店舗等をあっせんし、家賃補助などの支援を行う。

【平成16～18年度】

21世紀商業リーダー研修講座の充実（継続）

- 概要：平成16年度以降は、「商店街・まちづくり懇談会(仮称)」と連携し、生活者をまじえたワークショップを行うなど、消費者のニーズに敏感な経営能力の向上、実践力の強化を図る。

チャレンジショップの支援（空き店舗対策事業）（継続）

- 目的：新たな起業家の事業化の成功を目指す。
- 対象：起業家（商業者）
商業者（テナントミックスや交流サロンの整備）
- 概要：チャレンジショップ事業の継続的实施を図る。

地域密着型事業の促進

- 目的：生活支援サービスや地域への波及効果の高い事業を行う商業者、生活者に対して、事業化を積極的に支援し、地域の商業活性化、生活者への利便性の向上を図る。
- 対象：商業者、商店街、生活者
- 概要：市から生活支援サービスに関わる事業提案を求めたり(コンペ方式)、自発的な商業者や商店街、市民のビジネスモデル提案を受け、実効性の高いビジネスモデルに対して、事業費の補助・助成を行うなど積極的な支援を行う。
- また、該当する事業に対しては、行政サービスを補完するものとして、行政サービスの一部委託を行うなど、生活者と協働のまちづくりを勧めるとともに、コミュニティ・ビジネスとしての事業の安定を支援し、サービス水準を高め、市民生活の向上を図る。

全国の先進的な取り組みから

テーマ：地域密着にこだわった商店街づくり
小樽市・小樽都通り商店街振興組合

都通りファンクラブカードの発行

- ・カード保持者に都通り商品券(2割引きのプレミア付)を販売、また商店街主催の日帰りバスツアーへの招待等の特典あり。

後志バザール大収穫祭の開催

- ・周辺各地の秋の味覚を商店街内で、それぞれの生産者が直接販売。

情報誌「都通りかわらばん」を発行

- ・イベント情報やお店の紹介など、地域情報の発信(年6回発行)。

「都通りふれあいプラザ」の開設

- ・車椅子の人でも利用できるトイレの設置。
- ・常駐の女性スタッフを配置し、手荷物預かり、切手販売、ゆうパック発送、観光案内等のサービスを提供。

プラザは大型店に対抗して自分たちでできることは何かという視点から、まず最初に「ふれあいトイレ」事業として、商店街内の協力店にステッカーを貼ってもらうことから開始し、この事業の発展形として商店街の空き店舗に「ふれあいプラザ」を開設した。プラザはイベント会場やお客様の休憩所、情報発信基地として商店街事務所とは違う機能を発揮している。

広域型商店街活動の推進

【平成15年度】

広域型・商店街連携事業の研究

目的：西東京市独自の商店街づくり、西東京市らしさの醸成を図るため、個々の商店街が、独自のコンセプトを明確にしながら、広域的な取り組みの進め方について研究し、具体的な取り組みに向けての検討の場を設置する。

対象：商業者、商店街、商工会

概要：「商店・商品データベース」「広域型イベント」「共通スタンプ（ICカード）事業」「街なか駐車場・駐輪場」などの研究テーマを設定し、商業者や商店街と商工会が中心となって、研究活動を行う。

西東京市らしさの情報発信（商店街ホームページ）の充実

目的：ホームページを通じて、西東京市オリジナルの情報を市内外に広く発信することにより、個店・商店街への来街者を増加させるとともに、西東京市ブランドづくり西東京市イメージの醸成を図る。

対象：市や商工会のホームページ

コミュニティ・ビジネスとして取り組む生活者やNPOなどのホームページ

商業者や商店街のホームページ

一店逸品運動に取り組む商業者など

概要：充実したホームページや情報発信を行うためには、充実した情報ソースが必要であることから、個店の逸品づくり運動や、西東京市にしかないものを発掘し、その逸品情報データベースづくりを行う。そうした情報の蓄積を通じて、買いたいものや欲しいものがどこにあるか、どこで買えるかというような情報が入手できる実用的なホームページを作成する。

また、このホームページでは、店主情報やイベント、商店街情報、まち情報を発信するほか、生活者から情報を集められるような双方向の情報交流を進めるとともに、生活感覚の高い女性や技術の高い地元学生やシニアなどと一緒に商業者がホームページを作成（情報収集）するなど、生活者の視線によるホームページづくりを行う。

【平成16～18年度】

広域型・商店街連携事業の研究（継続）

西東京市らしさの情報発信（商店街ホームページ）の充実（継続）

商店・商品データベースの形成

目 的：市内の各商店や商店街、また取り扱っている商品、サービスをデータベース化し、市内の商店や「街なかサロン」からデータベースにアクセスできるようなシステムを整備し、必要な商品が市内のどこにあるかわかるシステムにより、“西東京市に行けば必ず必要な商品が見つかる”というイメージを醸成する。

対 象：商業者、商店街、商工会

概 要：同業者組合等の協力を得ながら、各商店の商品、サービス情報をデータベース化し、商店の端末や、別途整備する「街なかサロン」から商業者や生活者が検索できるシステムを形成する。

広域型イベントの開催

目 的：生活者の生活圏に応じて連携した商店街によるイベントを開催したり、全市的に5駅周辺の商店街が共同イベントを実施するなど、生活者が望むイベントや市内外からの集客が図れるイベントを支援し、商業活性化を促進する。

対 象：複数の商店街が連携して実施するイベント

概 要：連続する商店街が共同して行うイベントや、5駅周辺の商店街が、市民まつりや地域イベントに合わせて共同で開催するイベントなど、生活者の期待や広域からの集客力向上が期待できるイベントに対して、積極的、重点的な支援を行う。

また、各商店街が、順番に「五の市」や土日のイベントを開催するなど、市内のいずれかの商店街が、いつもどこかでイベントを行っているというような全市的な商店街の取り組みが進むよう、商店街の連携を図る。

ポイント：従来、商店街単位で行ってきた支援施策を、共同事業として実施する商店街を対象に、重点的に支援する

市内共通スタンプ（ＩＣカード）の促進

目的：複数の商店街で利用できるスタンプ事業を促進し、来街者の増加、消費を促進するとともに、カードのＩＣ化などにより、公共施設の利用や高齢者の生活情報など生活者の利便性向上を図る。

対象：商店街

概要：生活者ニーズに基づいて複数の商店街が取り組むスタンプ事業に対して重点的な支援を行い、事業促進を図る。

市内共通スタンプ事業やＩＣカード導入に向けて、先進地の取り組みを収集、分析するとともに、商業者や商店街、商工会、専門家などによる研究会を開催し、カードに付加できる情報の種類・内容、情報の安全性など、様々な問題点の解決に向け積極的な取り組みを行う。

駐車場・駐輪場共同利用システムの形成

目的：既成市街地や商店街の周辺に駐車場・駐輪場を確保し、来街者の利便性を向上させるため、商店街周辺の既存駐車場や空き地・空き店舗等の有効活用、適正な利用ルールを確立する。

対象：商店街

概要：商店街や街なかに立地する既存駐車場・駐輪場や空き地、空き店舗等のスペースを把握するとともに、所有者等と連携を図り、その利用ルールを確立し、駐車場・駐輪場の確保を図る。

また、各駐車場の利用状況などを適宜捉えて、案内するシステムの整備や、どの駐車場・駐輪場でも同じ条件でサービスが受けられるようなシステムについて、商業者、商店街、商工会、専門家などとの研究会を開催し、システムの確立を図る。

全国の先進的な取り組みから

テーマ： “らしさ” にこだわった商店街づくり（オリジナル商品の開発）
上越市・上越市本町四丁目商店街振興組合

「本町四丁目オリジナル商品」の開発

- ・個店の協力により、本町四丁目独自の商品を開発するとともに、既存商品の新販売策も提案。

当商店街に来ないと「買えない物」

地域で初めての「めずらしい物」

地域性、歴史性のある「豊かな物」

商品に「付加価値」をつけた販売策

「新客層」の掘り起こしのための販売策

地域の既存のイベントに来る人たちに、何かサービスできないかという発想から、和菓子店の協力により古くて新しいお餅の無料配布が契機、これまで「本当の昔のコロッケ」「公園のはす実ちゃん」「杉田さんちのMISO-DE:JAM」「ミントのしずく」など菓子や味噌、香水など多彩でオリジナルな商品開発を行っている。

全国の先進的な取り組みから

テーマ： 隣接する商店街との共同事業による活性化
徳島市・徳島市銀座商店街振興組合

複数の商店街によるパラソルショップ事業の推進

- ・直径3mの大型パラソルを50基製作し、商業を始めたい人に、1日単位で貸し出し、商業者を育成していこうとするもので、毎週土・日に開催。
- ・地域の10商店街が資金を分担し、共同で事業を実施する。来客の回遊性を図るとともに、出店者から空き店舗への出店希望者が出てくればとの思いもありスタート。

大型店の出店などにより、来街者が年々減少し空き店舗も増加しつつある商店街も多く、そうしたなかで各商店街が独自にイベントを実施しても、集客効果が上がらないことから、各商店街が合同で協議を重ね、ボードウォークを利用したパラソルショップを開催し、地域の商店街の回遊性を高めている。

商業者と生活者による商店街・まちづくりの推進

【平成15年度】

「商店街・まちづくり懇談会(仮称)」の開催

- 目的：商業者と生活者が自由に話し合える場を設定し、商業者と生活者によるパートナーシップに基づいた商店街づくり・まちづくりを促進する。
- 対象：商業者、生活者
- 概要：商業者と生活者が自由に議論できる場を確保し、定期的な会合を開催・運営できるよう支援を行う。
- 懇談会では、次年度以降に掲げるようなテーマについて、意見交換、議論を進め、商業者と生活者が連携しながら取り組める活動を具体的に推進していく。

街なかサロンづくり

- 目的：来街者が気軽に休息ができたリ、商業者と生活者が自由に話し合ったり、情報交換できる場を整備する。
- 対象：商業者、商店街
- 概要：商店内のコーナーや店先のベンチの設置など商業者や商店街ができるところからはじめ、来街者や生活者が気軽に訪れることのできる場を整備する。
- 空き店舗等の情報を収集し、将来的には常設の街なかサロンとなるような整備について検討を進める。

【平成16～18年度】

「商店街・まちづくり懇談会(仮称)」の開催(継続)

- 概要：テーマを設定し、具体的な検討を行う

【テーマ案】

- ・エコマネー
- ・パートナーシップ型イベント
- ・西東京市ブランドづくり

テーマに応じた社会実験やイベントを開催するなど、商業者や生活者から出てきたまちづくりの機運を具体的に展開する。

街なかサロンづくり(継続)

【平成19～24年度】

商店街・まちづくり懇談会(仮称)を中核とする市民協働事業への展開

街なかサロンの常設

- ・空き店舗を活用し消費者や地元生活者が気軽に憩い、語らえるサロン
- ・消費者への情報発信拠点、コミュニケーションの場

商業者と生活者のパートナーシップによる地域イベント・広域型イベント

- ・ショーウィンドウコンテスト・タウン誌コンテスト
- ・商店街フリーマーケット
- ・商業者が講師となる商店街大学校

社会福祉協議会や生活者・学生福祉サークルとの協働事業

NPOとの協働事業による環境共生事業、コミュニティ事業

- ・ゴミリサイクル、リユース等
- ・エコマネー

テーマ性のある商店街(通り)の整備

- ・まちづくり協定等の検討

コミュニティビジネス起こし

デビットカード・ICカード事業(高齢者安心カードなど)

全国の先進的な取り組みから

テーマ： 商業者と生活者の協働による地域コミュニティの創生
岩国市・岩国市仲通商店街振興組合

空き店舗を活用した「ほっとステーション『街の駅』」の整備

- ・当初は、空き店舗対策事業として、商業者が中心となりソフト事業を展開、近年は住民参加型のコミュニティ創生型へと移行している。
- ・「ほっとステーション『街の駅』」では、国際交流をテーマとした、米軍基地の子どもたちと地元の子もたち合同によるファッションショーや、地域にある世界一をテーマにしたイベントなどを開催。また、毎日曜の野菜朝市の常時開催を図りながら、別空き店舗を改装し、リサイクル・リフォームのミニショップ集合店舗や、手づくり作品のミニ展示場、街の情報ステーションとして運営し、街のくつろぎスペース「街の駅」としての定着を図る。

当初は商業者主導の空き店舗対策事業として始まった取り組みであったが、近年では住民参加型となり、地域のコミュニティの核となるような空き店舗の活用が図られるようになってきている。商業者としては、各商店の商業活動の中にこそ本来のコミュニティの場があり、そうした意識の情勢を本事業を通じて行っていくという視点にたっている。
